

あいさつでつなぐ人と心

岐阜市立陽南中学校 2年

川本 真悠子(かわもと まゆこ)

「直接話したことはないのですが。」「まさかこんなことになるなんて。」「きっとこうなると思っていました。」

事件が起こると、被害者や加害者の近所の人々が、このようにインタビューに答える様子を、私は何度もテレビで見ました。(気になっていたなら、話しかければいいのに。知らないなら答えなければいいのに。)私の心はモヤモヤします。無責任だとさえ思ってしまう。

さらに、私たちの生活を一変させた、新型コロナウイルス。人と人とのつながりが、確実にうすく、遠いものになってしまったことを、子どもながらに感じました。マスクをしないことが悪。人との距離が近いのも悪。大きな声を出すのも悪。これらは、私たちが人とつながる壁になっていきました。

その壁を壊すもの。壊すきっかけとなるものが、私はあいさつだと思います。

私は中学校でバスケットボール部に所属しています。大会で出会う他のチームの選手やコーチに、「おはようございます。」「ありがとうございました。」と自分からあいさつをしています。回数を重ねていくうちに、名前を覚えてもらったり、相手から話しかけたりしてくれるようになりました。試合で対戦するかもしれない相手でも、このようにつながることができたのは、あいさつがあったからでした。

また、下校中に犬を連れた人に、「こんにちは。わんちゃんかわいいですね。」と自分から話しかけたら、会うたびにその人とは話をするようになりました。その中で家が近所であったこと、同じ犬種を飼っていたことなど、関わらなければ知ることができなかった相手のことがたくさんあります。中学生になってからも「大きくなったね」とよく声をかけてくれます。全く知らない人とでもこのようにつながることができました。

やはり、あいさつには、人と人をつなぐ力があると思います。

私が、あいさつに対して、さらに興味をもったのは、ある新聞記事に出会ったからです。そこには、「あいさつのない組織では生まれない、当事者意識や主体的行動」と、書かれていました。

当事者意識。それは、ある問題や状況に対して、自分ごととして捉えること。これが集団の中で生まれれば、最初に述べたような、無責任な言動はなくなると思います。そして何より、私たちがずっと考え、向き合っていかなければならない「いじめ」も、みんなが当事者意識をもつことで、なくせるものだと思います。

主体的行動。それは、自分自身でしっかりと目的や目標から考えて、課題に取り組んだり、行動したりすること。みんなが「自分から」という気持ちで行動に移すことができれば、必ず、よりよい学級、学校、地域になっていきます。

こんなにも大切なことが、あいさつから生まれるのです。私自身のあいさつを振り返ってみても、「どんな時でもあいさつしてくれるね。」「朝からいいあいさつですね。」こんなふうにはめてくれる先生がいます。私のあいさつに大きな声や笑顔で返してくれる仲間がいます。こんなふうにつながっていきます。

だから私も自分の身の回りのあいさつを、もっともっと活発にしたいです。あいさつを通じてもっと多くの人とつながりたいです。互いを自分ごととして捉え、思い合える学級、学校にしていきたいです。

それが、私の考える、あいさつでつなぐ人、そして心です。